

特定健康診査を受診すると何がわかるの？

～この基準値等については「日本人間ドック学会」を参考にしています～

検査項目		基準値等	この検査でわかること	
基本項目	身体計測	BMI kg/m ²	18.5-24.9 BMI値は身長に見合った体重かどうかを判定する数値です。体重÷身長÷身長で算出します。	
		腹囲 cm	男性 84.9以下 女性 89.9以下 メタボリックシンドロームを判定するめやすとなります。	
	血圧	収縮期血圧 mmHg	129以下	血圧値によって心臓のポンプが正常に働いているか、また高血圧・低血圧かを判断します。
		拡張期血圧 mmHg	84以下	
	尿検査	尿糖	陰性（-）	尿中の糖分を調べる検査です。血液中の糖濃度が高いと再吸収しきれなくなり尿中に糖が漏れ出てきます。糖尿病などで陽性となります。
		尿蛋白	陰性（-）	尿中のたんぱく質の量を調べます。血液は腎臓の中の不要物だけがろ過され、尿中に排泄されます。正常であれば血液中の蛋白は腎臓ですべて再吸収されますが、腎機能の低下により腎臓からもれ出てきます。
	血中脂質検査	中性脂肪 mg/dℓ	30-149	体内の中でもっとも多い脂肪で、糖質がエネルギーとして脂肪に変化したものです。数値が高いと動脈硬化を進行させます。
		HDLコレステロール mg/dℓ	40以上	善玉コレステロールと呼ばれるものです。血液中の悪玉コレステロールを回収します。少ないと、動脈硬化の危険性が高くなります。数値が低いと、脂質代謝異常、動脈硬化が疑われます。
		LDLコレステロール mg/dℓ	60-119	悪玉コレステロールと呼ばれるものです。LDLコレステロールが多すぎると血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳梗塞を起こす危険性を高めます。
		non-HDLコレステロール(※) mg/dℓ	90-149	動脈硬化に関する指標の一つとなります。
	肝機能検査	GOT(AST) U/ℓ	30以下	GOT (ASTともいう)は、心臓、筋肉、肝臓に多く存在する酵素です。GPT (ALTともいう)は肝臓に多く存在する酵素です。数値が高い場合は急性肝炎、慢性肝炎、脂肪肝、肝臓がん、アルコール性肝炎などが疑われます。
		GPT(ALT) U/ℓ	30以下	
		γ-GT(γ-GTP) U/ℓ	50以下	肝臓や胆道に異常があると血液中の数値が上昇します。数値が高い場合は、アルコール性肝障害、慢性肝炎、胆汁うっ滞、薬剤性肝障害が疑われます。
	血糖検査	空腹時血糖 mg/dℓ	99以下	血液中のブドウ糖のことで、エネルギー源として全身に利用されます。測定された数値により、ブドウ糖がエネルギー源として適切に利用されているかがわかります。数値が高い場合は、糖尿病などが疑われます。
		HbA1c (NGSP値) %	5.5以下	過去1~2ヶ月の血糖の平均的な状態を反映するため、糖尿病コントロールの状態がわかります。
	追加項目	腎機能検査	血清クレアチニン mg/dℓ	男性 1.00以下 女性 0.70以下 アミノ酸の一種であるクレアチンが代謝されたあとの老廃物です。筋肉量が多いほどその量も多くなるため、基準値に男女差があります。腎臓でろ過されて尿中に排泄されます。数値が高いと、腎臓の機能が低下していることを意味します。
eGFR mL/min/1.73m ²			60.0以上 腎臓機能を示す指標となります。	
血清尿酸 mg/dℓ			2.1-7.0 たんぱく質の一種であるプリン体という物質が代謝された後の残りかすのようなものです。尿酸の産生・排泄のバランスがとれているかどうかを調べます。高い数値の場合は、高尿酸血症といえます。高い状態が続くと、結晶として関節に蓄積していき、突然関節痛を起こします。これを痛風発作といえます。また、尿路結石も作られやすくなります。	
尿検査		尿潜血	陰性（-） 尿に血液が混じっていないかを調べます。試験紙に浸して反応をみます。反応があれば、尿の通り道のどこかに出血源があります。尿路結石、膀胱炎、糸球体腎炎などで陽性となります。	
詳細項目	貧血検査	ヘマトクリット値 %	男性 38.5-48.9 女性 35.5-43.9 血液全体に占める赤血球の割合をヘマトクリットといえます。数値が低ければ鉄欠乏性貧血などが疑われ、高ければ多血症、脱水などが考えられます。	
		血色素量(ヘモグロビン) g/dℓ	男性 13.1-16.3 女性 12.1-14.5 赤血球に含まれるヘムたんぱく質で、酸素の運搬役を果たします。減少している場合、鉄欠乏性貧血などが考えられます。	
		赤血球数 万/mm ³	男性 400-539 女性 360-489 赤血球は肺で取り入れた酸素を全身に運び、不要となった二酸化炭素を回収して肺へ送る役目を担っています。赤血球の数が多すぎれば多血症、少なすぎれば貧血が疑われます。	
	心電図検査	異常所見なし	心臓の筋肉に流れる電流を体表面から記録する検査です。電流の流れ具合に異常がないかがわかります。	
眼底検査	異常所見なし	目の奥の状態を調べる検査です。通常眼底写真にて検査します。動脈硬化の程度、高血圧、糖尿病による眼の合併症や緑内障・白内障の有無などを調べます。		

(※) non-HDLコレステロールは、条件によりLDLコレステロールの代わりに実施する場合があります。